

ふき取り検査キットを使ったふき取り検査方法

- ① ふき取り検査キットを使ってふき取ります。
(キャップ部についてる綿棒でふき取ります)

※ふき取り箇所がわかるようにあらかじめキャップの上部に番号等を記入してください。



ふき取り前にボトルの絞り部で綿棒を圧迫して余分な水分を搾り取ります。

例) まな板の場合



一定面積を縦横にまんべんなくふき取ります。

例) 包丁の場合



刃の部分全体をまんべんなくふき取ります。

例) 蛇口取手の場合



裏表全体をまんべんなくふき取ります。

- ② 容器に戻してキャップ部を硬く閉め、よく振ります。
(綿棒に付着した菌を容器内の希釈液に溶かし出します)

- ③ ふき取り検査キットの希釈液を「サニ太くん」に添加します。
詳細は添付資料「ふき取りキットからサニ太くんへの添加方法」を参照ください。



ふき取り検査キットのキャップをあけます。



キャップ部を下にして側面目盛(1目盛1ml)を見ながら「サニ太くん」のパット部分に1ml添加します。

- ④ 「サニ太くん」を培養器に入れて培養します。

一般生菌用	: 35°C48時間
大腸菌群用	: 35°C24時間
真菌用迅速タイプ	: 25°C48時間
黄色ブドウ球菌用	: 35°C24時間
サルモネラ用	: 35°C24時間
大腸菌・大腸菌群	: 35°C24時間



- ⑤ 判定します。(詳細は次ページを参照ください)



マジックでコロニーをマーキングして菌数を数えます。

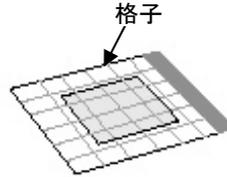
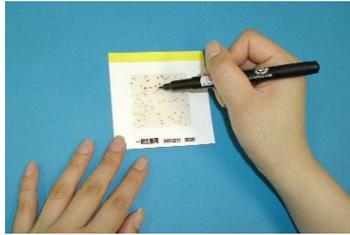


発色見本表を使って菌数を判定します。

1. コロニーの計測方法について

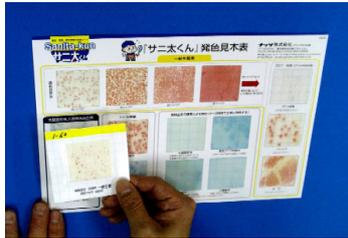
・コロニーを直接数える方法

発色したコロニーを数えます。マジックで発足したコロニーをつぶしながら数えます。数が多い場合は、カバーフィルムに印刷している格子マス内を数えて面積換算します。例えば、1マス内のコロニーを数えた場合その数を20倍します。



・生育数対照表を用いて計測する方法

発色したシートと生育数対照表の発色写真を見比べてより近い写真の下部に表示している菌数を判定菌数とします。



2. 菌数の算出

① 1. で計測した菌数を10倍した値がふき取った箇所の菌数となります。ふき取りキットを使った場合、容器内に入っている10mlの希釈液に対してサニ太くんに添加する量が1/10の1mlしか添加しないためです。

②ふき取り検査結果表示

菌数の表示は一般的に指数で表します。単位は個 (cfu) です。

表示例

1. で求めた菌数	表示①	表示②	表示③
0	<10	<10	<10
29	2.90×10^1	1.0×10^1	10^1
351	3.51×10^2	1.0×10^2	10^2
2500	2.50×10^3	1.0×10^3	10^3

※<10とは10未満という意味

※少数第2位までの指数表示（表示①）が一般的ですが、自主検査であれば表示②または指数だけの表示（表示③）でもかまいません。

※一般的な数値表示と指数との関係

一般数値表示	指数表示
10~99	$(1.0 \sim 9.9) \times 10^1$
100~999	$(1.0 \sim 9.9) \times 10^2$
1000~9999	$(1.0 \sim 9.9) \times 10^3$
10000~99999	$(1.0 \sim 9.9) \times 10^4$

ふき取り検査結果表例

検査日時：			
検査担当者：			
ふき取り箇所		一般生菌	大腸菌群
番号	名称		
1	包丁	<10	<10
2	まな板	<10	<10
3	手指	1.0×10^3	<10
4	蛇口	1.0×10^3	1.0×10^1
5	冷蔵庫取っ手	1.0×10^1	<10
6	スポンジ	1.0×10^3	1.0×10^1